

パブル 52 Joker

ひとまわり大きな52mmタイプのビッグパブルが登場したのは2017年秋のコレクションから。ダイヤルというキャンパスが大きくなった分だけ、大胆なアートモデルがさらに似合うようになった。しかも8mm厚のドーム型サファイアクリスタル風防は、レンズ効果でさらにダイヤルを大きく見せる。88本限定モデル。SS。自動巻。83万1600円



パブル 42 Juliette Jourdain

世界で初めて天然の鳥の羽根をダイヤルの装飾に使ったのはコルム。フェザーウォッチと呼ばれた70年以上の伝統を、パブルのワンモデルでも受け継いでいる。パブルシリーズの中でもJuliette Jourdainはハイセンスなモード系ウォッチだ。限定88本。SS。自動巻。99万3600円



ゴールドブリッジ レクタングル

'80年に初登場したときは、業界中が驚いたもの。「縦輪列」と呼ばれる縦一列に車輪が並ぶムーブメントは、それ以来進化を重ねて現在に至る。ちなみに車輪を固定する上下の彫金プレートがケースの中で架け橋のように見えることからゴールドブリッジと命名。ケースサイズは42.2mm×29.5mm×9.30mm K18PG。手巻。604万8000円

ゴールドブリッジ 43

ラウンドケースは43mm。レクタングルと同じCal.113「縦輪列」ムーブメントを搭載する。ゴールドブリッジはこんなにスケスケのシースルーモデルなのに、ケース内の気密性は高くキープされていて、日常生活防水以上のしっかりとした防水性能がある。K18PG。手巻。680万4000円



ゴールドブリッジ

ケースサイズは51.0mm×34.0mm×11.35mm。18金ピンクゴールドのフレームと、透明度が高く硬いサファイアクリスタルガラスで守られた全方向シースルーケースの中には「縦輪列」のCal.113と時分針だけ、清楚にして優雅ながら「攻めている」1本。K18PG。手巻。486万円



コルムが目指したのは、圧倒的なエレガンスの世界

「ゴールドブリッジ」
丁重に彫金が施されたゴールドプレートに挟まれた、ギアやセリヤが「直線に並ぶ」「縦輪列」というスタイルのムーブメントを、「コルム（CORUM）」では「バケット」と呼んでいる。時計師であるメイン・セント・カラブレモの作品だ。

18金のフレームクリアケースで形成されている「ゴールドブリッジ」は、時計を裏表、サイドなど、どの角度から見てもバケットの美しい躍動が中空に浮いて、さらに魅せるためのデザイン。この「ゴールドブリッジ」のプロトタイプが完成したのは1977年。ファーストモデルはその3年後に発売された。そしてコルムの50周年を記念して2005年に「モデルチェンジ」。世界に類を見ない特別なエレガントウォッチの「ゴールドブリッジ」は現在2世代目に入り、防水性能を与えられたことに加えバケットにピストン型ローラーを組み合わせた自動巻モデルまで登場した。

コルムのラインナップの中で、「ゴールドブリッジ」は双壁なのが「ヘリテージ」というコンセプト。ヘリテージは王道の宝飾時計をあくまで追求し続けている。他ブランドも含めて、「一生の」と評価される高級時計は、この世には多数存在する。しかしヘリテージは、たとえは次世代まで受け継がれる「家宝」とみなされるなど、そのライフはもっと長い。豪華なジュエリーと最上級の素材で構成された腕時計の価値は永遠で、しかも揺るがないのだ。



CORUM

LA CHAUX-DE-FONDS · SUISSE

— コルム —

コルムの世界へようこそ

ハイプライスなウォッチの世界でもランクの格付けがある。そんな高級腕時計のヒエラルキーの中では優雅な雰囲気のコルムは「ワンランク上位」に相当する。他のウォッチブランドにはなかなかマネのできないはつきりしたキャラクターも持っている。それでいてムーブメントはいたって実用的で、高性能も折り紙付き。



ゴールドブリッジ トゥールビヨン パノラミック

ゴールドブリッジの「縦輪列」のイメージを崩さないCal.CO100 フライングトゥールビヨンを搭載。ムーブメントを囲む目に浮いているようなピンクゴールドのピンがインデックス。ケースサイズは56.0mm×37.5mm×12.35mm。ケースは日常生活防水以上。クロノダイルストラップ。K18PG。手巻。2916万円

ヘリテージ ビリオネア トゥールビヨン

ヘリテージはコルムのフラッグシップシリーズ。しかもラ・ショー・ド・フォン工房で熟練の時計師が仕上げたCal.CO374 フライングトゥールビヨンを搭載。さらに44mmケースとベゼルはホワイトゴールド製。そのベゼルは2階建てでバケットダイヤルは計868ct（ラグ部のバケットダイヤルを含む）。インデックスのブルー・サファイア。エメラルド、ルビーは合わせて1.25ct以上。K18WG×ダイヤ他。自動巻。5810万4000円



日本一の販売実績ナンバーワンのハナジマは、新作から定番まで、コルムのラインナップは日本一の品揃えを誇るショップ。実際に実機を見てみたいという人は、コルムフェアが行われている期間中にぜひ行ってみることをお薦めする。



HANAJIMA
東京都江戸川区松江7-11-3 Tel: 03-3652-8740
http://www.hanajima.com
営業時間/10:00~19:30 定休日/火曜日



「時計業界の常識にとらわれず、本当に良い腕時計をプロデュースしたいというコルムのスタンスが気に入っています」とハナジマの花島社長。自身も「この仕事につく前からコルムのファン」だそうで、常に個人的なコレクションにはコルムが数本含まれている。この日は「ほかのアクセサリとコーディネートしてみました」と、ピンクゴールド&ダイヤモンドベゼルにマザーオブパール・ダイヤルのアドミラルズ カップ（現在のアドミラル）をチョイス。

ハナジマ
花島素人 さん



コルムの新作が 届きました

コルム コルム正規店
**CORUMとハナジマが
コラボレーション**

CORUM Fair
2018年モデルお披露目を兼ねた
特別お買い得な35日間
11月1日(木)~12月10日(月)

<特典その1>

- フェア期間中にコルムの各モデルを購入すると
- ・現一括払いの場合
購入金額の15%相当のハナジマ商品券（無期限）をプレゼント。
- ・分割払いの場合
分割100回まで分割金利および手数料をハナジマが負担。

<特典その2>

- ・フェア期間中にコルムの各モデルを購入した人には、コルム純正クロコダイラストラップをプレゼント。



アドミラル レジェンド 42 クロノグラフ

クロノグラフモデルに続いて、2018年にはスモールセコンドタイプのアドミラル レジェンド42にもガンブルーが復活。このレジェンド42は12角ベゼルとダイヤルに加えて、ラバーストラップもガンブルーでマッチカラー。SS。自動巻。65万8800円



アドミラル 45 ワールドタイム

センタースケルトンのダイヤルは外周の国際海洋信号旗インデックスでローカルタイムを、また9時位置のウィンドウでセコンドタイムを表示する。また3時位置のウィンドウでは都市や国をセットできるので、セコンドタイムゾーンの設定が簡単。TI×K18PG。自動巻。259万2000円



アドミラル エーシーワン 45 スケレット

アドミラル エーシーワン 45 スケレットの、2018年に登場した新色モデル。リューズガード一体式のベゼルのベースとラバーストラップそしてダイヤル内のデイト用スケルトン回転プレートと秒針も鮮やかなブルー。ラージサイズだけど、女性が身に付けてもサマになりそう。TI。自動巻。145万8000円



アドミラル エーシーワン 45 スケレット

グレード5チタン45mmの8角形ケースと12角ベゼルを組み合わせたアドミラル エーシーワンシリーズには、スケルトンダイヤルタイプもある。マットなグレーで統一されたスケルトンダイヤルは精緻な工芸品といった雰囲気。ストラップはクロコダイラストラップ。TI。自動巻。156万6000円

アドミラル レジェンド 42 クロノグラフ

かつて世界的に品薄となっていたアドミラル（当時はアドミラルズ カップ）のガンブルーベゼルが、日本のマーケットでだけ復活した。だから、2017年秋に発表された42mmケースのクロノグラフがベゼルのガンブルーバージョンは、日本限定モデル。SS。自動巻。79万9200円



アドミラル レジェンド 42

ガンブルーベゼルとホワイトダイヤルの組み合わせ。ブルーダイヤルよりもさわやかなイメージ。アドミラルシリーズのシンボルの国際海洋信号旗をモチーフにしたインデックスが、よりカラフルな印象を与える。ステンレスプレスレット。SS。自動巻。62万6400円

アドミラル エーシーワン 45

ダイヤルの素材として採用されたのは、ヨットのデッキなどでも使われるチーク材。天然素材のため、密閉に入れば世界で1本のモデルとなる。45mmの8角形ケースと12角のベゼルはグレード5のチタン製。初出は2017年のコレクション。TI。自動巻。89万6400円



アドミラル レジェンド 42 クロノグラフ

42ミリのクロノグラフタイプのアドミラルにもチーク材ダイヤルが登場。ピンクゴールドの12角ベゼルに合わせて、ダイヤルは美しいアール・デ・フランス。シボの効いたオーソドックスなラバーストラップも赤みの強いアール・デ・フランスを合わせている。SS×K18PG。自動巻。170万6400円

常に世界を驚かせてきた コルムのエポックメイイク

ところでコルムの歴史を紐解くと、その歴史はスイスのフシヨード・ド・フランに遡る開いた1906年から始まる。そこからいくつもの個性的なモデルが生まれた。例えば本物の20ドル金貨を2枚の薄い板に切り分け、表面をダイヤルに、そして裏面はバックケースに使う（コイウォッチ）は、初期のコルムの代表的な「世界初」。

ベゼルにインデックスを刻み、ダイヤルを大きく見せる（ロムル）も、それまでないデザイン。そして本物の鳥の羽をダイヤルに使った（フェザーウォッチ）も、それまで誰も考えつかなかったアイデアだ。そして、ロバート・E・ヒラリーがグリーニャンで発見した鐘石がコルムの手にかかると（メテオライト）という腕時計になった。さらに2000年に発表された（ハブル）は、厚み8ミリのサファイアクリスタルの塊を凸レンズに削り、それを風防にしている。ハブルというシリーズ名の通りによく似た膨らんだ外觀は、それだけでも独特。しかしレンズを通して見るダイヤルは、角度によって拡大されたり、歪んだり、一度として同じ表情を見せない。そして1983年のモデルエレングとなったのが（アドミラル）だ。十二角形のケースとベゼル、インテックスには国際海洋信号旗をモチーフにしたものが多い。

コルムのラインナップはバラエティに富んでいる。そしてこんなモデルも、必ず心に響くのだ。

コルム正規店のハナジマに イン・ショップが出現

コルムの正規店と日本では出会えるのは、全国で20か所ほど。中でも充実しているのがハナジマで、ショップ内にはコルムのためのスペース、いわゆるイン・ショップがある。なんといってもハナジマはここ数年、コルムの販売実績で日本一を誇るショップ。ここからは、実機を直接じっくりと見ながら選べるのだ。

「コルムは流行を意識するということは一切関係ないですね。自由で、ひらめきを大切にしているブランドなんです」

花島社長は、実は本人も若いころからのコルムファン。プライベートのウォッチコレクションもコルムが多い。「コルムファンリッジやヘリテージ。さらにはアドミラルとハブルも2018年の新作が届きました」ハナジマはその冬、コルムを全ラインとイン・ショップに充実させて、コルムのフェアを企画している。コルムというブランドをじっくりと見てほしいという人ならば、絶対に見逃すまいと、ぜひイベントに、ぜひ期間中に足を運んでほしい。